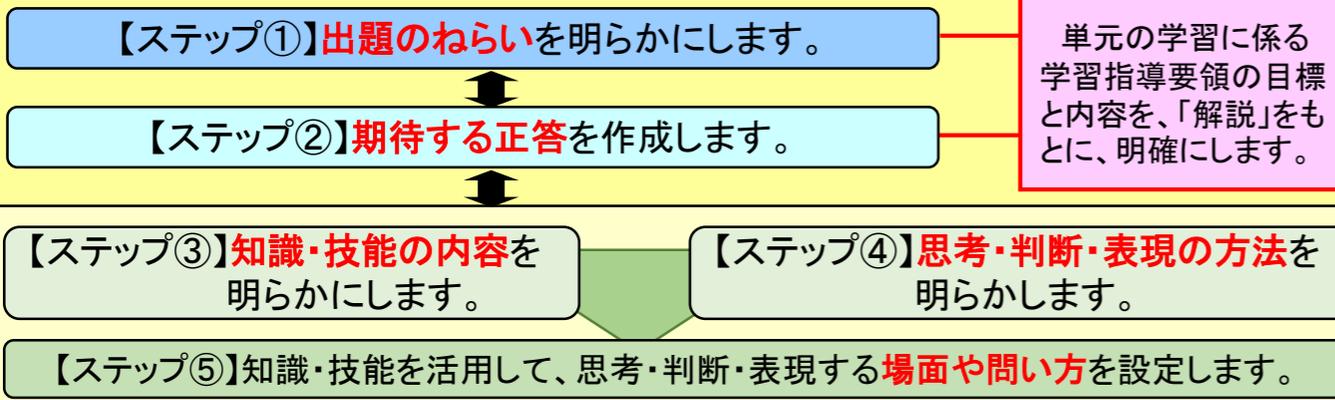


思考力・判断力・表現力を問う定期考査問題づくりのヒント ～ねらいに応じた問いづくり～ <社会>

定期考査は、生徒の学習状況を把握し、学習指導の改善・充実を図る大変重要なものです。特に、思考力・判断力・表現力を問う定期考査問題をつくるには、次に示す【ステップ①】～【ステップ⑤】の定期考査問題づくりの構造を踏まえることが大切です。

定期考査問題づくりの構造

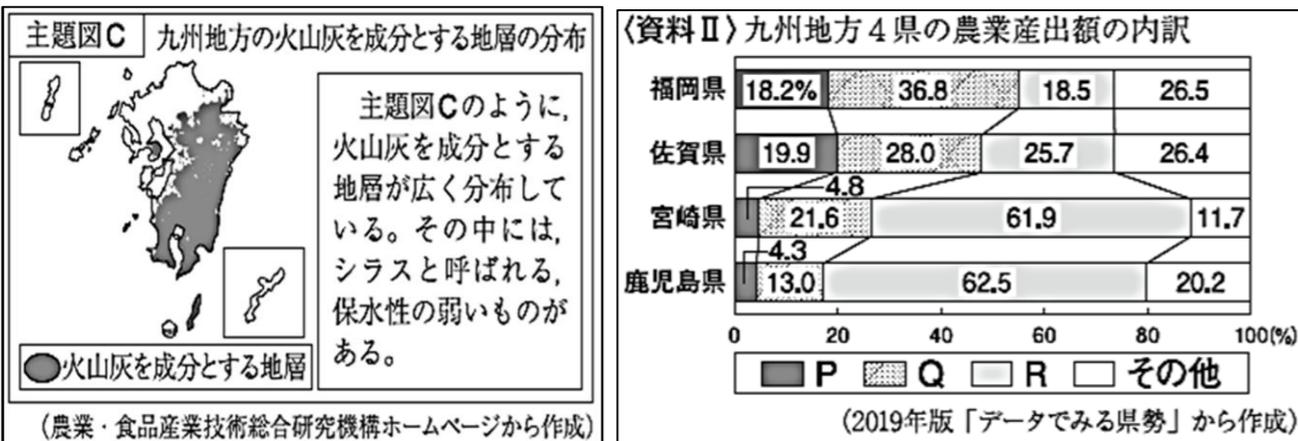


ここでは、令和2年度の県立高校入試問題 4（九州地方の農業の特色に関する問題）を用いて、**主に基礎的・基本的な内容を問う問題** と **主に思考力・判断力・表現力を問う問題** の作成のポイントを紹介します。

4 優樹さんは、日本の様々な地域の特色について調べ、ノートを作成した。ノートを見て、各問に答えよ。

<ノートの一部>

九州地方の③農業の特色



主題図Cと資料Ⅱとを関連づけると、九州地方の農業の特色は、〔①〕ということがわかる。

地域の農業の特色と自然環境の関連について、次の2つの問題を比べてみます。左が「グラフに示された各県の農産物を答える問題」、右が「主題図と資料から読み取れることを基に、自然環境と農業の特色の相互の関連を説明する問題」です。

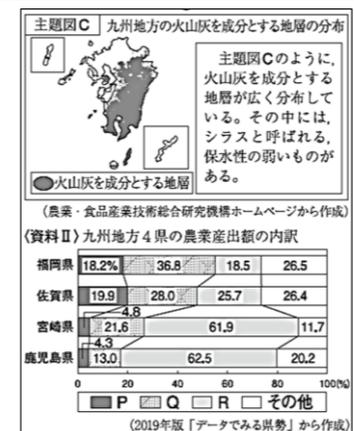
	主に基礎的・基本的な内容を問う問題	主に思考力・判断力・表現力を問う問題
ねらい	各県の主要農産物を答えることができる。	主題図と資料から読み取れることを基に、九州地方の農業の特色と自然環境の相互の関連を説明することができる。
問題	(※資料Ⅱのみを提示して) 資料ⅡのP～Rは、米、野菜、畜産のいずれかを示す。P、Rにあてはまる農産物を答えなさい。	4 問3 下線部③について、資料ⅡのP～Rは、米、野菜、畜産のいずれかを示す。〔①〕にあてはまる内容を、P、Rにあてはまる語句を使って書け。 ※実際に出題された問題
答え	P: 米 R: 畜産	火山灰を成分とする地層が広く分布している県では、農業産出額に占める米の割合が低く、畜産の割合が高い



主に各県の農業についての知識が必要

火山灰土の分布と県の位置に着目して自然環境と農業を関連付けるという思考が必要

ねらいに応じた問い方の工夫



主題図Cと資料Ⅱとを関連づけると、九州地方の農業の特色は、〔①〕ということがわかる。

「2つの資料を提示」
○主題図から読み取った火山灰土の分布状況と、資料Ⅱが示す4県の農業出荷額の割合を関連付けることができたと見取ることができます。

「思考させるために答え方を指示」
○「主題図と資料Ⅱを関連づけると」と指示することで、火山灰土の分布と県の位置に着目して、自然環境と農業の相互関係について、考えやすくなります。

「使用する語句を指定」
○P、Rにあてはまる語句を使って解答させることで、地理的事象に関する知識の定着も評価することができます。

同じ題材であっても、ねらいを明確にして、ねらいに応じて問い方等を工夫すれば、思考力・判断力・表現力を問う問題をつくることができます。このような問題が解けるようになる生徒を育てる授業づくりが何より大切です。

